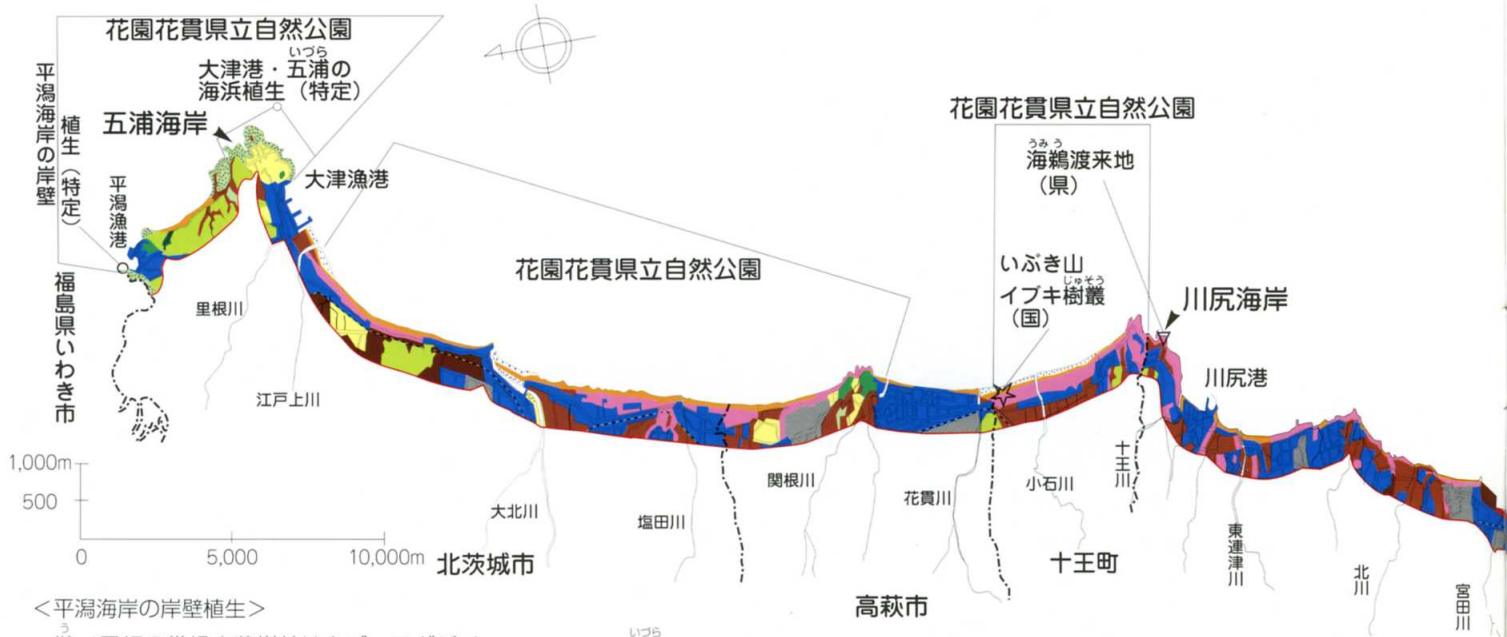


みどころ地図 (常磐沿岸)



<平潟海岸の岸壁植生>

鶴ノ子岬の常緑広葉樹林はタブ、スダジイ群落の北限に近く、ツツブキやハマギクが混生していることで特徴のある植生となっています。

<大津港・五浦の海浜植生>

崖地のクロマツ林と海浜植物によって形成された良好な自然環境は茨城県を代表する景観となっています。

<いぶき山イブキ樹叢>

分布の北限に近いこの地域でイブキが群生しているのは珍しく、大正11年国の天然記念物に指定されました。いぶき山には現在9本のイブキ、クロマツ、タブノキ、ヤブツバキなどが生育しています。

五浦海岸 (北茨城市)



<いぶき山イブキ樹叢>

崖地の植物群落

崖海岸は急斜面のうえ風当たりも強く植物にとっては生育しにくい場所です。斜面にはハマギクやススキといった植物がみられますが、これらは露岩の岩棚や岩の隙間など土壌がわずかに堆積したところに生育しています。ラセイトソウやスカシユリ、ツツブキ、コハマギクなども同じように崖斜面に群落をつくります。海面からの高さが増すにつれ、トベラ、マサキなどの耐潮性のある低木が現れ、次第にクロマツやタブノキ、ヤブツバキなどの常緑高木樹が群落を形成するようになります。林内にはヤツデやツツブキ、ヤマユリなどが見られます。クロマツ群落は環境が安定してくると、タブノキ、スダジイ、モチノキからなる常緑広葉樹林へと移り変わっていきます。

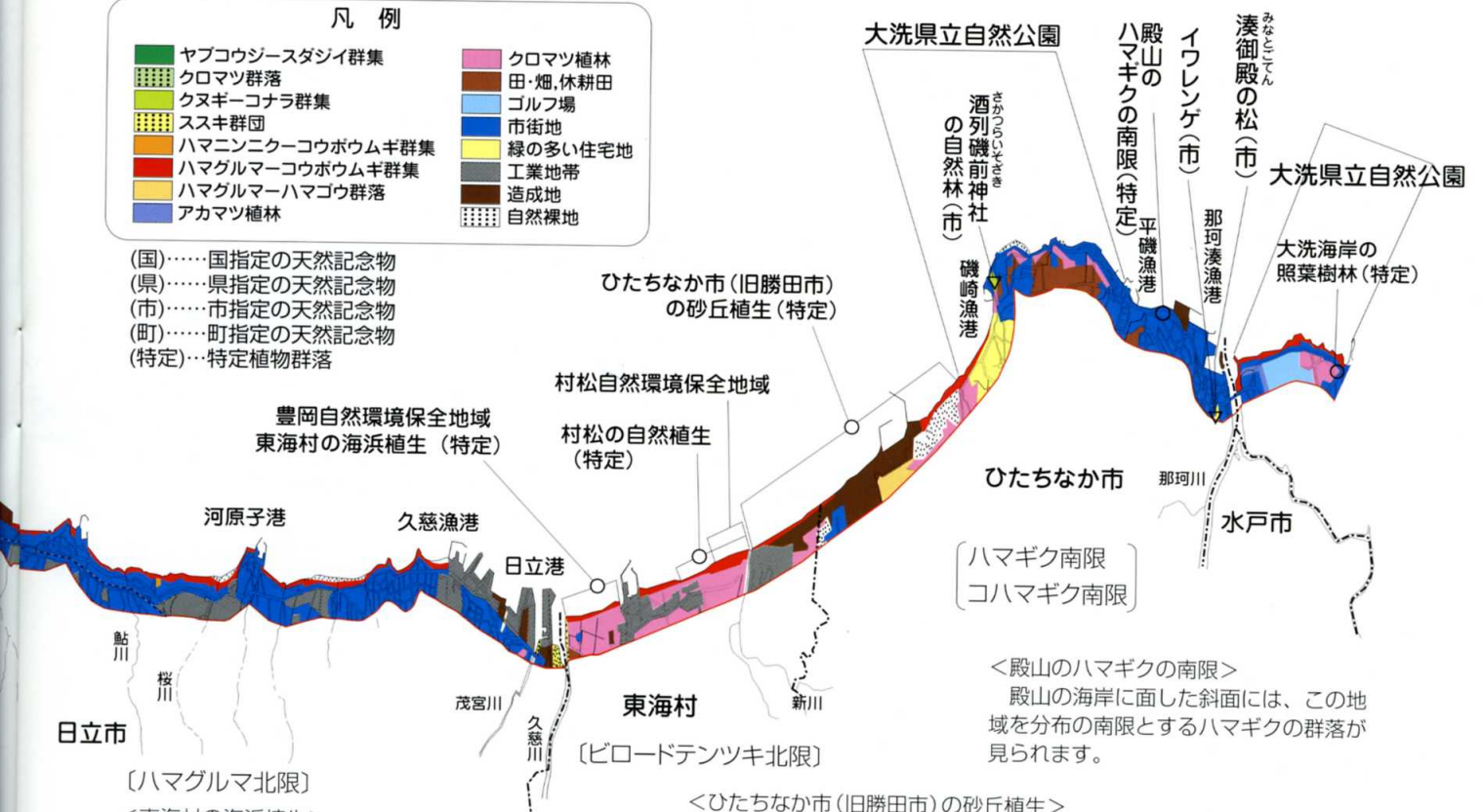


常磐沿岸の最北部に位置し、周辺一帯が海食崖となっています。高さ18mほどの崖斜面にはトベラやススキ、ハマギクがまばらに生育し、崖上ではクロマツやタブノキが樹林を形成しています。

凡例

■ ヤブコウジースタジイ群集	■ クロマツ植林
■ クロマツ群落	■ 田・畑、休耕地
■ クヌギ・コナラ群集	■ ゴルフ場
■ ススキ群団	■ 市街地
■ ハマンニク・コウボウムギ群集	■ 緑の多い住宅地
■ ハマグルマ・コウボウムギ群集	■ 工業地帯
■ ハマグルマ・ハマゴウ群落	■ 造成地
■ アカマツ植林	■ 自然裸地

(国)……国指定の天然記念物
 (県)……県指定の天然記念物
 (市)……市指定の天然記念物
 (町)……町指定の天然記念物
 (特定)……特定植物群落



〔ハマグルマ北限〕

＜東海村の海浜植生＞
 豊岡のクロマツ林は自然度が高く、林床には海浜植物などが多数生育し優れた自然環境を形成しています。

〔ピロードテンツキ北限〕

＜ひたちなか市(旧勝田市)の砂丘植生＞
 かつては砂浜植生とクロマツを主とする広大な自然植生が見られましたが、その一部は国営公園内に残されています。

＜村松の自然植生＞

村松虚空蔵尊の社寺林から海岸までの一帯は、常緑広葉樹やクロマツ、海浜植物など多様な構成となって、優れた自然環境を形成しています。

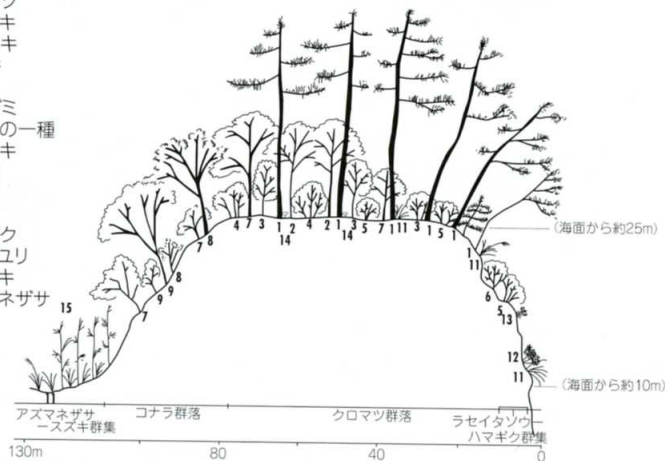
＜殿山のハマギクの南限＞
 殿山の海岸に面した斜面には、この地域を分布の南限とするハマギクの群落が見られます。

川尻海岸 (日立市)



構成種

- 1-クロマツ
- 2-タブノキ
- 3-ヒサカキ
- 4-マサキ
- 5-トベラ
- 6-アキグミ
- 7-サクラの一種
- 8-ハゼノキ
- 9-コナラ
- 10-ヤツデ
- 11-ススキ
- 12-ハマギク
- 13-スカシユリ
- 14-ツツフキ
- 15-アスマネザサ



ウミウの渡来地としても有名であり海食洞が発達しています。崖斜面にはハマギク、スカシユリがわずかに分布しています。崖上には海側にクロマツの高木林、内陸側にコナラ、サクラの落葉広葉樹林が形成されています。

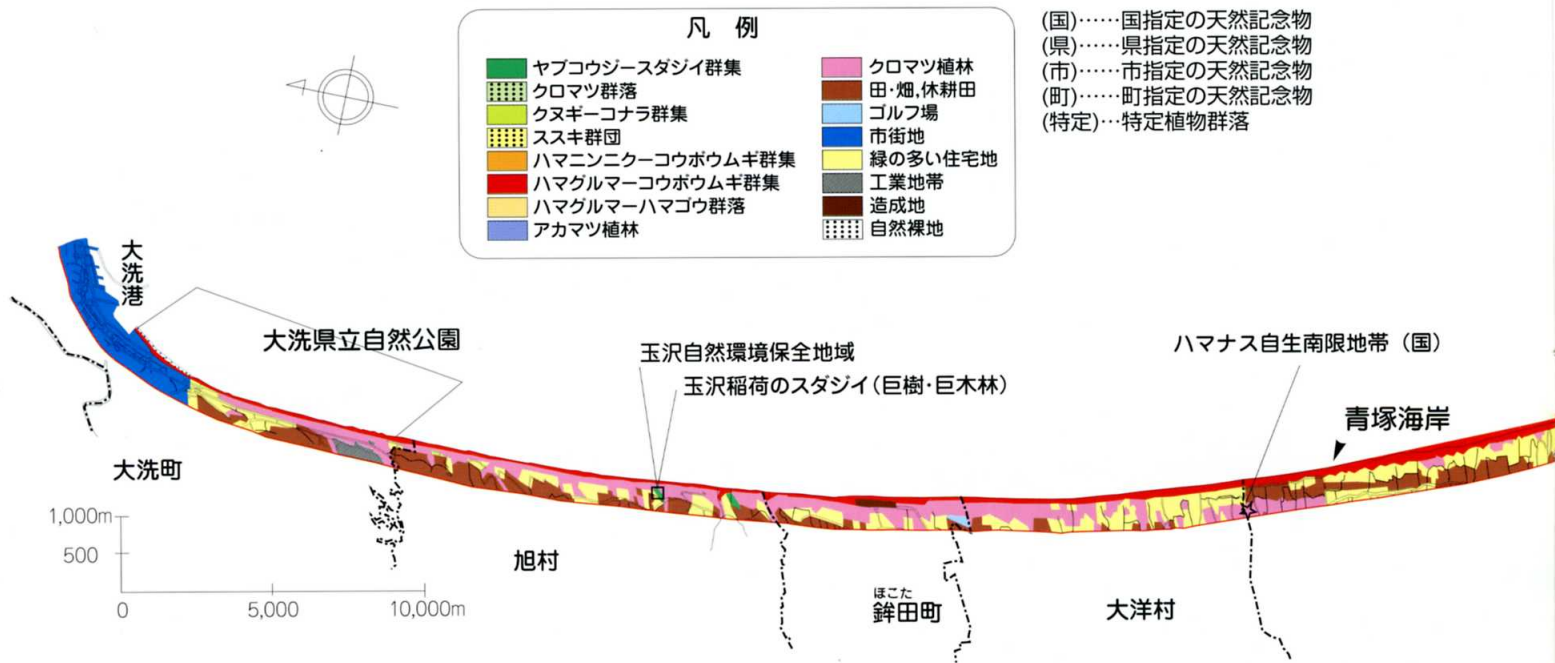
＜大洗海岸の照葉樹林＞

大洗磯前神社の社寺林はスタジイ、タブノキ、シラカシ等からなる暖帯性常緑樹林であり、この地域の自然植生であると考えられます。



＜東海村の海浜植生＞

みどころ地図 (鹿島灘沿岸)



＜玉沢自然環境保全地域＞
 タブノキ、スタジイ、ヤブツバキなどからなる樹林は海岸地域における代表的な照葉樹林であり、保全地域内の神社には樹齢推定300年以上のスタジイの大木があります。



＜ハマナシ自生南限地帯＞

＜ハマナシ自生南限地帯＞
 鹿嶋市大小志崎はハマナシの太平洋側の南限地帯であることから、大正11年国の天然記念物に指定されました。ハマナシは現在千葉県銚子まで確認されていますが群生地としては重要なものであります。
 (ハマナシの標準和名はハマナシであるが、別名のハマナシとして天然記念物に指定されている。)

青塚海岸 (鹿嶋市)

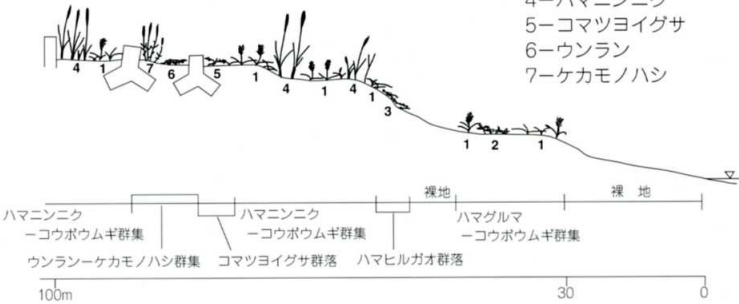


砂浜の植物群落

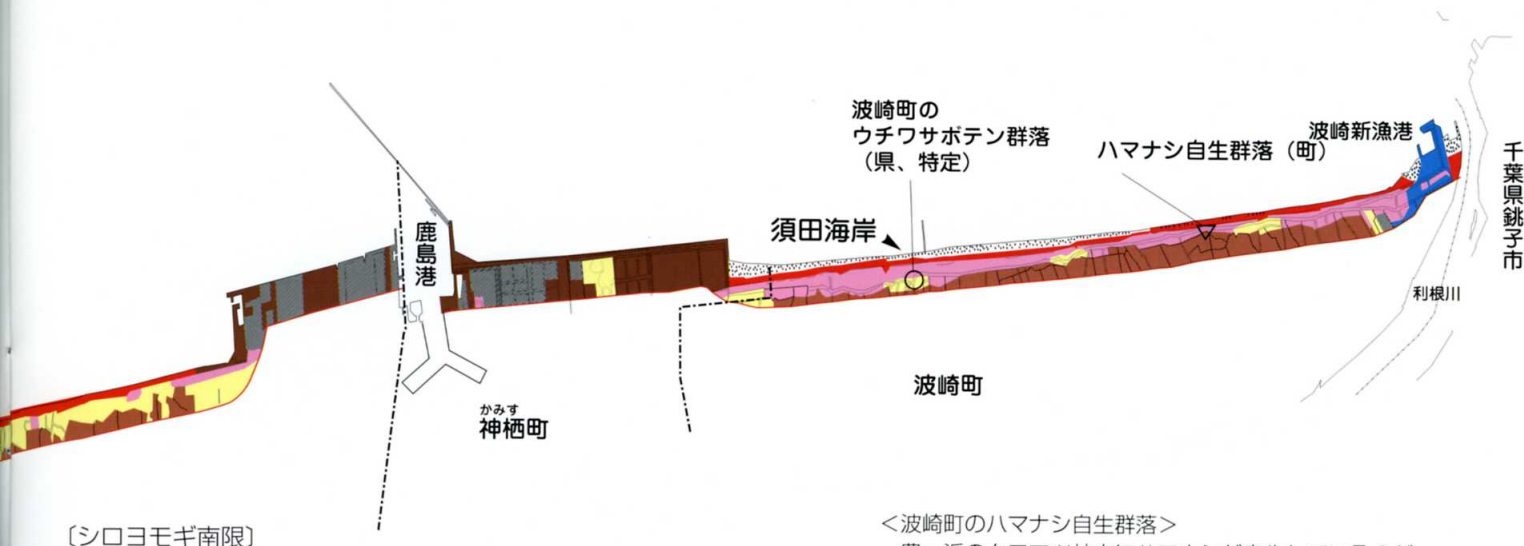
砂浜に生育する植物は潮の影響や風当たり、砂浜の安定性などの環境条件によって立地が決まります。波がたえず打ち寄せるところにはなにも生育していませんが、少し内陸に向かうと植物が現れてきます。最初にでてくるのはオカヒジキやハマヒルガオなどによって構成される1年草を主体とした群落です。これらは波で打ち上げられた海藻やゴミが堆積して一時的に富栄養化しているところに見られます。次にみられるのはコウボウムギやハマニンニクからなる多年草の群落です。この群落は常に潮風にさらされる砂丘の不安定地に出現します。ハマニガナやウンラン、ハマグルマなども同様の場所に群落を形成します。さらに内陸側では砂の移動が小さくなり、スナビキノウやチガヤ、低木のハマゴウ、ハイネズの群落がみられます。その背後にはクロマツ林が広がっています。クロマツ林は防風や飛砂防止といった効果があり古くから植栽が行われています。

構成種

- 1-コウボウムギ
- 2-ハマグルマ
- 3-ハマヒルガオ
- 4-ハマニンニク
- 5-コマツヨイグサ
- 6-ウンラン
- 7-ケカモノハシ



鹿島灘の中央に位置し、砂浜は緩やかな傾斜で比較的安定しています。植物も広く生育し、コウボウムギ、ハマヒルガオ、ウンラン、シロヨモギなどが見られます。また、土堤斜面にはテリハノイバラ、ハマゴウのような低木類の中にスカシユリ、ハチジョウナ、イヌドクサなどが混生しています。



鹿嶋市

＜波崎町のウチワサボテン群落＞

須田浜の砂丘西側にはウチワサボテンの群落が見られます。自生植物ではありませんが大きな群落を形成することは珍しく、昭和47年茨城県の天然記念物に指定されました。

＜波崎町のハマナシ自生群落＞

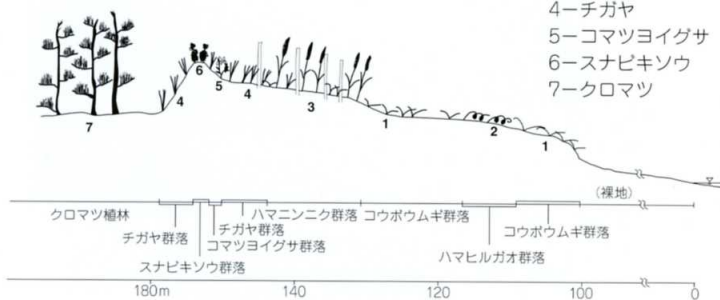
豊ヶ浜のクロマツ林内にハマナシが自生しているのが発見され、昭和50年町の天然記念物に指定されました。(ハマナシは別名ハマナスとも呼ばれる。)

須田海岸 (波崎町)



構成種

- 1-コウボウムギ
- 2-ハマヒルガオ
- 3-ハマニンニク
- 4-チガヤ
- 5-コマツヨイグサ
- 6-スナビキソウ
- 7-クロマツ



波打ち際からしばらくは平坦な裸地が広がっています。堆砂垣が設置されて飛砂が抑えられているのでコウボウムギ、ハマニンニク、チガヤが生育しています。



＜波崎町のウチワサボテン群落＞